

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 城野 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、漢字の問題以外では無解答は全くない。 ・書く力を問う問題に課題がある。
	よくできた問題	ことわざの意味を理解し、その使用例として適切なものを選ぶ問題は正答率が高かった。
	努力が必要な問題	漢字の書き取り問題では他と比べて正答率が著しく低く、無解答率もかなり高かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回ってはいるものの、昨年度よりわずかだが上昇していた。 ・記述式の正答率がかなり低い。無解答率も、他の問題形式より目立つ。書く活動を充実させる必要がある。
	よくできた問題	話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさをとらえる問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉で自分の考えを記述する問題の正答率がかなり低い。

算数A	全体的な傾向や特徴など	図形領域以外では、全国平均正答率を上回っている。特に数と計算領域ではその傾向が顕著である。
	よくできた問題	少数と整数の加法・乗法、商を分数で表すなどの計算問題は正答率がかなり高かった。
	努力が必要な問題	最小公倍数を求める問題の正答率が著しく低い。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・ほとんどの問題において全国平均正答率を上回っている。応用問題に対しても、苦手意識を持たず、粘り強く取り組むことができるようになった。 ・他と比べて前年度からの伸びが最も大きい。
	よくできた問題	問題に示された二つの数量の関係を一般化してとらえ、そのきまりを記述する問題の正答率がかなり高かった。
	努力が必要な問題	与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係をとらえ、「最大の満月の直径」の割合を正しく表している図を選ぶ問題の正答率が低かった。

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>・「国語が好き」「国語の授業の内容はよくわかる」という質問に対して肯定的に回答した割合は全国平均を下回った。国語に対する関心・意欲を高め、意欲的に学習に取り組めるように指導する必要がある。</p> <p>・「算数は好き」「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思う」という問いに対し、肯定的な回答をした割合は、全国平均を上回った。これまでの計算領域の定着の取組の成果が表れている。今後も子どもたちが「分かる・できる」と実感できるような取組を継続していく必要がある。</p> <p>・「自分には、よいところがある。」という質問に対して肯定的な回答をした児童の割合が全国と比べてかなり高い。子どもたちの自尊感情が高くなってきていることがわかる。</p> <p>・「授業の中でわからないことがあったら、先生に尋ねる」という質問に対し全員の児童が肯定的な回答しており、教師と児童の好ましい関係やわからないことを気軽に聞くことができる学級の雰囲気がつくられているといえる。</p> <p>・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(※60分以上行う割合)」という質問に肯定的な回答をしている児童がかなり少ない。今後も家庭への啓発を進めていく必要がある。</p>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師や友達の話聞いてメモをとったり、振り返りを書いたりするなどの「書く活動」を意識的に取り入れる。</li> <li>・「学力定着サポートシステム」を活用し、個々の定着度を集約する。その結果に合った学習内容を取り入れる。</li> <li>・児童の計算能力を集約した個別の「計算カルテ」を基に定着していない問題を行う。</li> <li>・授業で基礎的な内容が理解できていない児童に放課後の補充学習で個別に指導する。</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・月始めの1週間を「家庭生活・学習週間」と位置付け、各家庭に家庭生活・学習がんばりカードを配布し、基本的な生活習慣の様子を保護者とともに確認して記述できるようにする。</li> <li>・昨年度本校で作成した「学習・生活の手引き」を配布し、生活習慣や学習習慣について保護者に周知する。また、学校からの配布物の裏に「学習・生活の手引き」の抜粋を載せ、保護者への周知を図る。</li> </ul>
---